

エルサルバドル留学生 エミリア・カルデナスさんとの交流

北村 達(三井住友銀行OB)

2021年11月三井V-Net関西支部から神戸大学のエルサルバドル留学生とのボランティア交流を紹介され、第1回目のマッチングは神戸大学の百年記念館でお互いの自己紹介からはじまり、次回会う日時を決めました。次回の交流のテーマは彼女から、「お互いの国の年末・年始の過ごし方」についてで、私は改めて、日本の年末・年始のしきたり等について調べましたが、昭和・平成・令和ではずっと引き継がれて続いているものもありますが、なくなっていくものもあり、改めて、日本のしきたり、伝統について再認識しました。彼女はスマホにあるエルサルバドルの年末年始の写真を見せてくれましたが、視覚に訴える力があり、文章よりも画像のほうがひと目でわかりやすい点に気づかされました。

次回会う1月は大阪城に行ってみたいとの要望があり、阪急梅田駅で待ち合わせ、地下鉄に乗り継ぎ、NHK大阪放送局を通り過ぎ大阪城大手門に着くと、英語ができる日本人ボランティアが近づいてきて、英語による説明を始めるのと、彼女はスペイン語、英語、日本語もできるので、良く理解している様子でした。

私自身大阪市に生まれ育ちましたが、大阪城天守閣には50年近く上がったことがなく、中に入るといろいろ昔の展示品があり、天守閣の上からは大阪市内が一望できる素晴らしい景色に、改めて大阪城を再認識しました。



エミリアさん(左)、筆者(右)

エルサルバドルは日本の製造業の中南米における最初の投資国で、50年以上前から行われています。日本の自動車の中南米における最初の代理店もこの国で、親日の人が多いのもうなずけます。

最後に留学生との交流はまだ端緒ですが、今後、留学生交流ボランティアの活動という機会を生かし、私自身も向上し、さらに、今後お互いの国をよく知ることができ、微力ながらも日本に留学して良かったと思える人を一人でも増やせたらと思っています。